

< 參考資料 >

（仮称）北九州市子どもまなか教育プラン KPI

記載がない場合、最新値は令和5年度、目標値は令和10（2028）年度

ミッション		指標	最新値	目標値	
			《出典》		
プランの項目					
1 全ての子どもにとって「居心地のよい学校」をつくる	KPI		小学生：83.8% 中学生：78.9%	小学生：90% 中学生：85%	
			《全国学力・学習状況調査》		
	(2)	—	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると回答した子どもの割合	小学生：62.5% 中学生：65.1%	小学生：65% 中学生：70%
				《全国学力・学習状況調査》	
	(2)	(3)	学校生活の中で「こわいな」「不安だな」と思ったことがあると回答した子どもの割合	小学生：23.1% 中学生：21.8%	小学生：15%以下 中学生：15%以下
			《次期教育プラン策定のためのアンケート》		
	(3)	—	「勤務する学校が、子どもにとって安全・安心な居場所になっている」と回答した教職員の割合	65.5%	85%以上
		《次期教育プラン策定のためのアンケート》			
		学校施設老朽化対策事業（大規模改修及び外壁改修）の工事校数	47校 (R1～5年度)	50校 (R6～10年度)	
		《教育委員会調査》			

ミッション		指標	最新値	目標値	
プランの項目			《出典》		
2 こどもが失敗を恐れず挑戦し、志と人間力を高められる環境をつくる	KPI	将来の夢や目標を持っている こどもの割合	小学生：81.1% 中学生：66.8%	小学生：85% 中学生：70% (政令市1位の 水準を目指す)	
			《全国学力・学習状況調査》		
	(1)	-	「人の役に立つ人間に なりたと思う」と 回答したこどもの割合	小学生：95.7% 中学生：94.4%	小学生：95% 中学生：95%
			《全国学力・学習状況調査》		
	(2)	-	「挑戦したい気持ちはある が、失敗が怖い(恥ずかしい) ので挑戦したくない」と 回答したこどもの割合	小学生：24.1% 中学生：23.1%	小学生：15%以下 中学生：15%以下
			《次期教育プラン策定のためのアンケート》		
			「5年前のこどもと比較して、 困難にくじけず対応する 力が劣っている」と回答した 教職員の割合	37.0%	20%以下
				《次期教育プラン策定のためのアンケート》	
	(3)	-	「将来就きたい仕事や夢に ついて考えさせる指導を した」と回答した学校の割合	小学生：84.5% 中学生：98.2% (R4年度)	小学生：90% 中学生：100%
			《全国学力・学習状況調査》		
(4)	-	「学習を通じて、自分が したいが増えている」と 回答したこどもの割合 【市立高校】	77.8%	80%	
		《高校魅力化評価システム》			
		図書館の利用者満足度 (中学生以下) 「読みたい本の有無」 「調べ物に役立つか」 「職員の知識・説明」	93.2% 93.4% 95.7% (R4年度)	各項目で 90%以上	
			《図書館利用者アンケート》		

【参考指標】

ミッション		指標	最新値	目標値	
プランの項目			《出典》		
3 誰一人取り残さない学びと、未来を見据えた先端的な学びを進める	KPI	授業が自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていると思うこどもの割合	小学生：81.7% 中学生：73.6%	小学生：85% 中学生：80%	
			《全国学力・学習状況調査》		
	(1)	【参考指標】	全国学力・学習状況調査結果の平均正答率	【国語】 小学校：64% 中学校：66% 【算数・数学】 小学校：61% 中学校：47%	前年度以上
			《全国学力・学習状況調査》		
			「5年前と比較して、こどもの基礎学力が劣っている」と回答した教職員の割合	39.4%	20%以下
			《次期教育プラン策定のためのアンケート》		
			「先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて分かるまで教えてくれていると思う」と回答したこどもの割合	小学生：91.8% 中学生：88.7%	小学生：95% 中学生：90%
			《全国学力・学習状況調査》		
			「5年前と比較して、こどもの体力が劣っている」と回答した教職員の割合	43.3%	20%以下
			《次期教育プラン策定のためのアンケート》		
		全国体力・運動能力調査結果の体力合計点	【小学校】 男子：52.55 女子：54.12 【中学校】 男子：42.89 女子：48.27	前年度以上	
		《全国体力・運動能力調査》			

ミッション		指標	最新値	目標値	
プランの項目			《出典》		
3 誰一人取り残さない学びと、未来を見据えた先端的な学びを進める	(1)	う歯のないこどもの割合 【中学生】	64.38%	67.9% (R8年度)	
		《学校保健統計調査》			
		肥満傾向児の割合 【小5男子】	15.40%	全国平均値以下	
		《肥満度調査》			
		肥満傾向児の割合 【小5女子】	11.92%	全国平均値以下	
		《肥満度調査》			
	【参考指標】	(2)	学校給食をおいしいと感じているこどもの割合	72.6%	80%
			《教育委員会調査》		
		(2)	いじめの解消率	97% (R4年度)	100%
			《児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査》		
			スクールソーシャルワーカーによる事例の解決・好転率	54% (R4年度)	前年度以上
		《教育委員会調査》			
		(4)	居住地の校区外の特別支援学級に通学している対象こどもの割合	小学校：9.2% 中学校：17.9% (R4年度)	小学校：8% 中学校：15%
			《特別支援学級実態調査》		
		(4)	中学校卒業段階で、CEFR A1レベル相当（英検3級など）以上のこどもの割合	46.9% (R4年度)	60%
《英語教育実施状況調査》					
(5)	学校教育活動全体の中で、週3回以上GIGA端末を活用する割合	小学生：51.2% 中学生：42%	小学生：100% 中学生：100%		
		《全国学力・学習状況調査》			

ミッション		指標	最新値	目標値
プランの項目			《出典》	
4 自律的で特色ある学校づくりを進め、 教職員のウェルビーイングを高める	KPI	こどもと向き合う時間を確保できていると感じている教員の割合	64.7%	80%
		《教育委員会調査》		
	【参考指標】 (1) (2) (3)	日々の仕事にやりがいを感じている教員の割合	87.7%	95%
		《教育委員会調査》		
		研修振り返りシートの総合評価（4段階評価）	3.8 (R4年度)	3.9
		《研修振り返りシート》		
		「学校で主体的・対話的で深い学びを実践できている」と回答した教職員の割合	6.7%	20%
		《次期教育プラン策定のためのアンケート》		
		「学校で個別最適・協働的な学びを実践できている」と回答した教職員の割合	7.4%	20%
		《次期教育プラン策定のためのアンケート》		
「こどもまんなか社会を意識した取組を学校でできている」と回答した教職員の割合	6.5%	20%		
《次期教育プラン策定のためのアンケート》				
	教職員の仕事をしている中で、悩みや苦しさがあると回答した教職員の割合	69.5%	35%	
《次期教育プラン策定のためのアンケート》				
	「勤務する学校は、チーム学校としてのチーム力がある」と回答した教職員の割合	31.4%	60%	
《次期教育プラン策定のためのアンケート》				

ミッション		指標	最新値	目標値
プランの項目			《出典》	
5 地域とのつながりの中で、 社会全体で子どもを見守り支え、 育てる	KPI	地域や社会をよくするために 何かしてみたいと思う こどもの割合	小学生：75.3% 中学生：62.3%	小学生：80% 中学生：70%
			《全国学力・学習状況調査》	
	【参考指標】 (2)	「今住んでいる地域の 行事に参加している」と 回答したこどもの割合	小学生：49.8% 中学生：39.0%	小学生：60% 中学生：50%
			《全国学力・学習状況調査》	
【参考指標】 (2)	「教育的効果が得られた」と 回答した地域学校協働活動実 施校の割合	77% (R4年度)	前年度以上	
		《地域学校協働活動事業実施校に 対して行ったアンケート》		

<用語解説>

1 ウェルビーイング

身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むもの。また、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む、包括的な概念。【教育振興基本計画】

2 ステークホルダー

事業実施の際に、直接または間接的に影響を受ける利害関係者のこと。【北九州市・新ビジョン 付属資料】

3 ZEB

Net Zero Energy Building（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の略称。快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物。【環境省】

4 ICT

情報通信技術（Information and Communication Technology）の略。情報・通信に関連する技術一般の総称。IT（Information Technology：情報技術）とほぼ同義に用いられるが、ネットワーク通信による情報・知識の共有が念頭に置かれた表現。

5 コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）

学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組み。学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができる。【文部科学省ホームページ】

6 地域学校協働本部

従来の学校支援地域本部等の地域と学校の連携体制を基盤として、より多くのより幅広い層の地域住民、団体等が参画し、緩やかなネットワークを形成することにより、地域学校協働活動を推進する体制。【地域学校協働活動の推進に向けたガイドライン 参考の手引（文部科学省）】

7 スクールヘルパー

子どもたちに確かな学力と豊かな心など「生きる力」を育むため、学校だけでなく地域や保護者の方などが、ボランティアとして活動するもの。

8 北九州ステップアップメソッド（コグトレ）

従来、個人を対象としたコグニティブトレーニング（Cognitive Training：認知トレーニング）を、集団を対象に応用させたもので、対人スキルの向上（社会面）、基礎学力の土台づくり（学習面）、不器用さの改善（身体面）の3方面から、こどもたちへの支援を行うもの。

9 北九州子どもつながりプログラム

小中9年間で、子供の実態や発達段階に応じて、人間関係づくりのスキルを獲得するためのプログラム。児童生徒の自尊感情を高める、自分の気持ちをコントロールする、友だちと互いのよさを認め合い、協力できる関係をつくることなどを狙う。

10 社会情動的スキル

一貫した思考・感情・行動のパターンに発現し、学校教育またはインフォーマルな学習によって発達させることができ、個人の一生を通じて社会・経済的成果に重要な影響をあたるとする個人的能力。【家庭、学校、地域社会における社会情動的スキルの育成（OECDワーキングペーパー）】

11 アントレプレナーシップ教育

起業家精神（チャレンジ精神、創造性、探究心等）と起業家的資質・能力（情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力等）を有する人材を育成する教育のこと。【北九州市・新ビジョン 附属資料】

12 レファレンス

情報を求める利用者に対して、図書館員が図書館の資料と機能を活用して、必要としている資料の検索方法を教えたり、回答を提供したりするサービス。参考業務ともいう。

13 DX

Digital Transformation（デジタルトランスフォーメーション）の略。最先端のデジタル技術を企業や行政などに広く浸透させることで、人々の暮らしをより便利で豊かなものへと変革すること。

14 読書バリアフリー

すべての人が読書による文字・活字文化の恩恵を受けられるようにするため、さまざまな障害のある方が利用しやすい形式で本の内容にアクセスできるようにすること。

15 学校給食応援団

市内栄養士養成大学や料理人の方々などで構成。学校給食について、専門的な

助言やメニューに関する提案、食育に関する取組みなどを行う。

16 スクールカウンセラー（SC）

児童生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有する臨床心理士などの「心の専門家」。

17 スクールソーシャルワーカー（SSW）

社会福祉士または精神保健福祉士の資格を有し、不登校や暴力行為、児童虐待など、問題を抱える児童生徒が置かれた複雑な家庭環境に働きかけ、関係機関との連携の強化を図る職員。

18 インクルーシブ教育システム

人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組み。【文部科学省】

19 サードプレイス

学校でも、家庭でもない、居心地のよい第三の居場所。【厚生労働省】

20 外国語教育リーディングスクール

本市の外国語教育を牽引するリーダー校として教育委員会が指定する小中学校で、外国語教育における先進的な指導方法の開発・実践を行い、成果を全市に普及する取組みを行っている。（令和6年4月現在、小学校4校、中学校3校を指定。）

21 STEAM 教育

数理教育に創造的教育を加えた教育理念。科学（Science）、技術（Technology）、工学（Engineering）、芸術・リベラルアーツ（Arts）、数学（Mathematics）の頭文字をとったもの。

22 OJT

職場において、主に仕事の経験を通じて必要な能力を養成する研修。On the Job Trainingの頭文字をとったもの。【北九州市人材育成基本方針】

23 教育ダッシュボード

教育に関する様々なデータを自動的に収集、分析、加工して簡潔にまとめ、集計値や表、グラフなどで視覚的に分かりやすく一覧化した画面。【GIGA スクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議】

北九州市教育大綱

北九州市では、「こどもまんなか」で質の高い教育環境の充実を図ってまいります。

「こどもまんなか」とは、「こどもの視点や考え方を大切すること」と、「こどもたちを、社会を構成する存在として尊重すること」と考えています。

次の5つの柱に基づいて、こども一人ひとりの中にある思いや考えに耳を傾け、それぞれの個性や多様性を尊重し、こどもたちが持っている可能性を發揮していける教育を推進します。

1 全てのこどもにとって、「居心地のよい学校」をつくります。

こどもが安全に安心して過ごすことができ、受け入れられていると感じることが出来る居場所を、学校をはじめとする社会全体でつくり、セーフティネットとしての役割を果たせるようにします。

2 こどもが失敗を恐れず挑戦し、志と人間力を高められる環境をつくります。

変化が激しく正解がないこれからの時代には、自分で問いを見つけ、解決していく力が求められます。

結果よりプロセスを大事にする「主体的・対話的で深い学び」に取り組み、様々な経験や挑戦をできる場を整えることで、こどもたちがいきいきと育ち、自分なりの価値観・哲学や、周りの他者を思いやりながら協働する力、転んでも立ち上がる力などを身につけて人間力を高め、本来持っている可能性を發揮できるよう、こどもの成長を後押しします。

3 誰一人取り残さない学びと、未来を見据えた先端的な学びを進めます。

多様なこどもの状況に応じた学びを進めるとともに、多様な他者と学び合う「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を進めることで、誰一人取り残さず、全てのこどもたちの可能性を引き出し、学齢期を経過した人も含め、学びの機会を保障する環境を整えます。

また、グローバル化やデジタル化が進展する、これからの新しい時代に対応するための学びや、義務教育9年間を見通した取組みを進めます。

4 自律的で特色のある学校づくりを進め、教職員のウェルビーイングを高めます。

こどものウェルビーイングを実現するためには、教職員のウェルビーイングを確保することが必要です。

教職員のなり手不足や若年層の急増、こどもが抱える問題の多様化・複雑化、働き方に対する見直しなど、様々な課題に直面する中で、教職員の確保・育成、「先生を一人にしない」取組みと併せて、外部人材や地域と連携しながら学校づくりを進めることで、働き甲斐があり、誇りを持ってこどもに向き合える職場をつくります。

5 地域とのつながりの中で、社会全体でこどもを見守り支え、育てます。

学校と家庭や地域、企業、関係機関が連携して、社会全体でこどもを見守り、健やかに育む環境づくりを進めます。地域や社会に学校を開き、学校運営への参画を進め、また、多様な人材の活用によって様々な学びや体験ができる機会の創出を図ります。

さらに、そうした地域とのつながりが、こどもたちのアイデンティティを涵養し、自らを育ててくれた地域や歴史に愛着や誇りを抱くことによって、郷土愛の醸成、さらには地域の課題に主体的に取り組み、貢献する人材の育成につながることを目指します。